

「貨物鉄道モーダルシフトPT」第3回会合！

JR貨物より現下の経営動向今後の見通しなどについてヒアリング！

JR連合は、4月24日、議員会館において貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト（以下PT）第3回会合を開催した。



今回は貨物鉄道のほぼ太宗を占めるJR貨物を招聘し、現下の経営動向や今後の見通し等についてヒアリングを行うことを目的として開催された。会合には、座長の榛葉賀津也参議院議員（静岡県）、アドバイザーの東京女子大学竹内健蔵教授、貨物鉄産労及びJR連合が出席した。

冒頭、主催者を代表してJR連合坪井会長から、「足元では景気回復の兆しもあり、景気との相関性が極めて強いと言われる貨物鉄道にとっても明るい材料になりうるかもしれないが、目下極めて厳しい経営状況と認識している。しかし物流において貨物鉄道の担うべき役割は大いにある。そうした観点に立って今後PTで様々な議論を行うにあたり、現在JR貨物が置かれた状況及び今後の経営ビジョンなどについて本日拝聴させて頂きたい」と述べた。

PT座長である榛葉参議院議員は、「この間特例業務勘定利益剰余金を活用した支援策や税制特例措置の確保に微力ながらお手伝いさせて頂いた。今後も御社にとって必要な措置の確保を図らなければならないが、総論として国家財政が更に逼迫する中、租税特別措置をはじめ後は非常に難しい局面になるのは間違いない。かような状況を踏まえつつ、今後の貨物鉄道のあり方を議論しなければならないし、そうした中で行政における関与のあり方について議論を深めていきたい」と述べた。

その後JR貨物より、現下の経営動向、特に3月に実施したダイヤ改正の概要や1ヶ月経過後の動向をはじめとして、現在JR貨物が行う各種施策について説明を受け、その後委員との間で広範な意見交換を行った。

日本の物流は取扱数量ベースで見ると近年低迷を続けている。貨物鉄道自体も同様の傾向を示している。しかし、物流全体の底上げ、そして物流最適化を図る上で貨物鉄道は不可欠な輸送ツールである。そうした視点に立って今後どのように貨物鉄道を磨いていけば良いのか、同PTにおいて議論を深めていくこととしたい。